



日本共産党青梅市議団

青梅市議会議員

みねざき拓実 市議会報告

暮らしの相談、無料生活相談(要予約)は、お気軽にどうぞ！

2020年12月

連絡先

070-5590-6081

新型コロナ対策 診療体制の強化を

9月議会で行われた市の新型コロナウイルス感染症対応に関する施策の一部を紹介します。

総合病院の感染クラスターは、これまでの「濃厚接触者」を探して検査と保護を行う方法だけでは、院内感染がおさえられない状況があり、医療従事者については、より幅広い検査が必要であることが明らかになりました。

また、発熱患者が増えた場合にそなえて、夜間・休日診療を行っている健康センターの別棟を建設し、発熱外来に対応できるPCR検査センターの設置を決めたことは重要な前進です。ただし、来年6月のオープンであるため、この秋冬に向けて地域の医療機関と連携し、診療体制を確保して市民にわかりやすく伝えていくことが必要です。



総合病院クラスター対策

約7200万円

市議会として幅広い職員のPCR検査を行うための費用や不足する資材を調達するための費用を支出することを急遽、決めました。

PCR検査センターの設置

約1億600万円

発熱患者が増加すると診療体制がパンクすることが予想されるため、発熱外来機能をもったPCR検査センターが設置されることになりました。

市内医療機関への補助

約2800万円

医療機関にマスクなどの購入費のほか、10万円～100万円が補助されます。まだ少額ですが、市が補助することは重要です。市として、さらに充実させるとともに、国・都による本格的な経営支援を求めます。

学校の新型コロナ対応策

約1億2000万円

学校内での感染対策用の備品とともに、様々な制限がある中で、子どもたちの学びを保障するために必要な機材(プロジェクターなど)も購入できるように、予算が措置されました。

補正予算

9月議会に提案された一般会計補正予算(6、7、8号)は、上記のほか、児童全員のタブレット端末の導入(約4億4500万円)、新生児への特別定額給付金(約6500万円)、災害避難所用のパーテーション(約1700万円)などのほか、国・都との実務上の調整など、合計で約21億3000万円(うち約15億1900万円が国・都支出金)でした。日本共産党青梅市議団は、全体としては新型コロナ対策など必要なものであると判断し、賛成しました(全会一致)。

子どものインフル 予防接種に補助

2000円

インフルエンザ蔓延を防止するため、1歳～中学生を対象に、市が2000円を補助します(一人1回のみ)。

領収書を添付して申請。1月末まで。(詳しくは市健康センターへTel 23-2191)

学校がボロボロ トイレが臭い 外壁が危険

子ども
たちに

安心して通える学校を

市内の小中学校は、老朽化が深刻です。1月に第一小学校の外壁が落下し、日本共産党青梅市議団は、緊急の点検と対策を市に求めました。4月に行われた全校点検では、各校に外壁のヒビなどが確認され、7小や3中など8校で補修工事が行われています(予定含む)。



吹上小学校

今年度、トイレの改修工事が行われています。ユニバーサルデザインのトイレで、廊下との間にはドアがなく、構造が工夫されています。配管も交換したのでくさい臭いなくなりました。



トイレがきれいになり、子どもたちがトイレに行くときの表情が大きく変わったとのことでした！

外壁点検 危険個所の補修

まだまだ
必要です



外壁が落下した跡

外壁落下など危険な箇所の対応は、一部行われましたが、まだ十分ではありません。



入口ドアがスライド式のトイレ。収納式のフィッティングボード(足場の台)があり、着替えが必要な場合も安心。トイレだけでなく、手洗い場もセンサー式の自動洗浄で、衛生面も大きく改善されました。

東京都の補助継続を 要請しました

東京都は、学校のトイレ改修促進のため、工事費用の6分の1を補助していますが、この制度は今年度で終了します。

青梅市はまだ工事に3年かかる計画であるため、来年度以降も補助を継続してもらえるように、日本共産党青梅市議団として東京都に要請しました。また、市にも計画をさらに進めるように求めています。



右から斉藤まり子都議、井上たかし市議、みねざき拓実、都の義務教育課長